

日本版BPSDケアプログラム 活用事例

1 通所介護（デイサービス）

通所介護（デイサービス）の職員 A が認知症ケアプログラムを開始した。対象は、居宅介護サービスで通所介護を利用している、80 歳代前半の男性であった。話し合いは同じ通所介護の介護職員と行った。

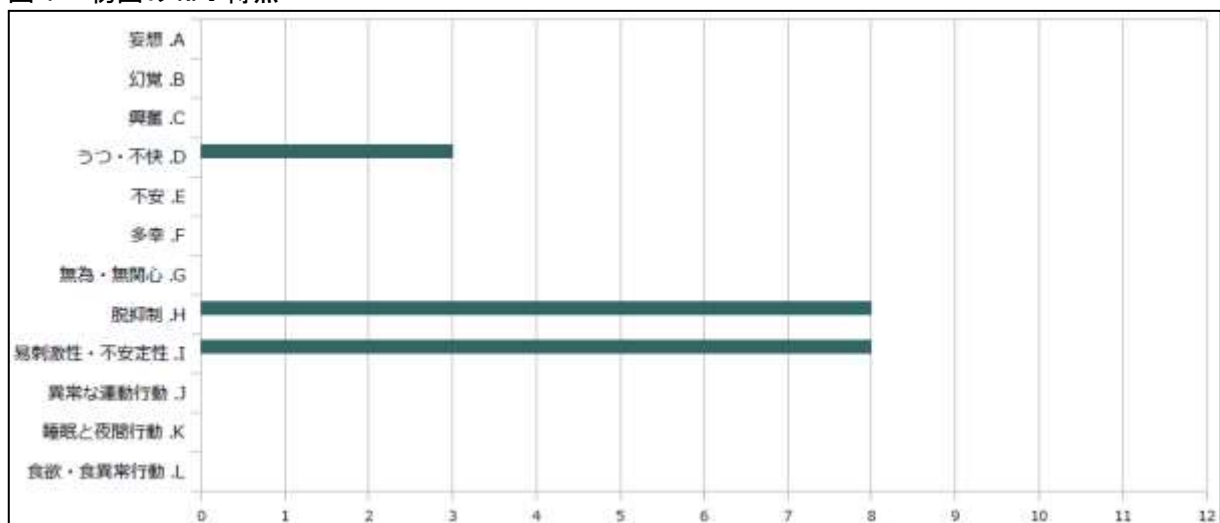
【初回】

行動心理症状の評価を行ったところ、NPI 得点は 19 点で「脱抑制」と「易刺激性・不安定性」の得点が高かった（図 1）。

背景要因の分析でチェックリストに該当するニーズはなかった。

ケア計画は①「ご本人がデイサービスの事業所に到着して体操が始まるまでの間、クロスワードパズルを行う」、②「会話や挨拶を手を握る・背中をさする等ボディタッチしながら行う」、とした。

図 1 初回の NPI 得点



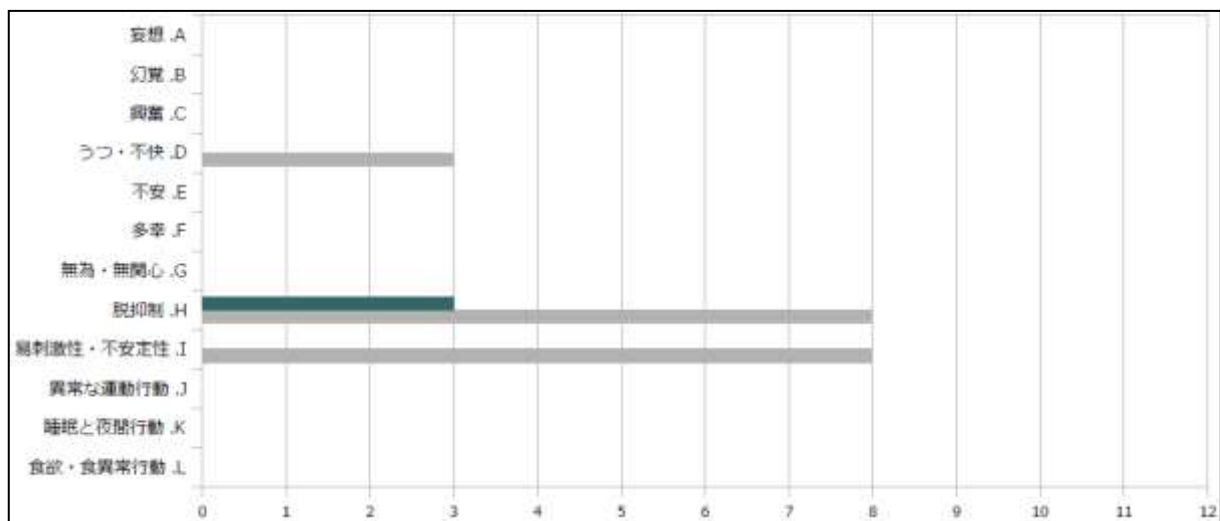
【2回目】

行動心理症状の評価の結果、NPI 得点は 3 点に減少した（図 2）。

話し合いに参加した介護職員から「表情が明るくなった」「活動参加ができるようになった」との報告があった。

クロスワードパズルはご本人にとって内容が難しいと判断され、ケア計画は①「ご本人がデイサービスの事業所に到着して体操が始まるまでの間、ジグソーパズルを行う」、②「会話や挨拶を手を握る・背中をさする等ボディタッチしながら行う」、と変更した。

図2 2回目のNPI得点（緑）と初回（グレー）からの変化



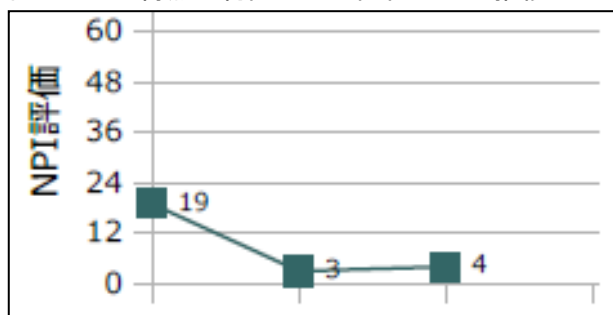
【3回目】

NPI得点は4点で大きな変化はなかった（図3）。

介護職員との話し合いで、ご本人の行動は他者に自分の存在を認識してもらいたいためではないか、という仮説があがった。

ケア計画は①「他利用者とだんらんの時間をつくる」、①「大きな声や音を出すなどのサインが見られたら職員は反応する」（目線を合わせる・声をかける・そばに行く）、とした。

図3 NPI得点の初回から3回目までの推移



2 訪問看護

訪問看護ステーションの職員が認知症ケアプログラムを開始した。対象は、居宅介護サービスで訪問看護を利用している、70歳代前半の男性であった。話し合いは同じ訪問看護の看護職員、理学療法士と行った。

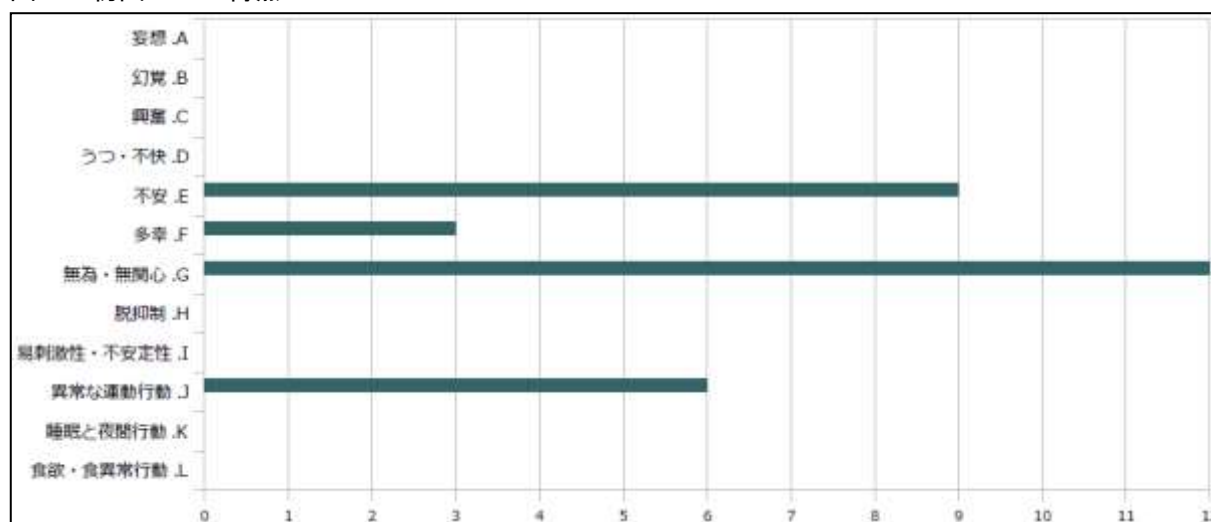
【初回】

行動心理症状の評価を行ったところ、NPI 得点は 30 点で「無為・無関心」、「不安」、「異常な運動行動」の得点が高かった（図 4）。

背景要因の分析では「視覚の問題がある」、「姿勢を変えない」ことが該当するニーズとしてあがった。

ケア計画は①「視線を合わせて会話をする」、②「ケア時に端坐位をとるとき障子を開け外の景色を観てもらおう」、とした。

図 4 初回の NPI 得点



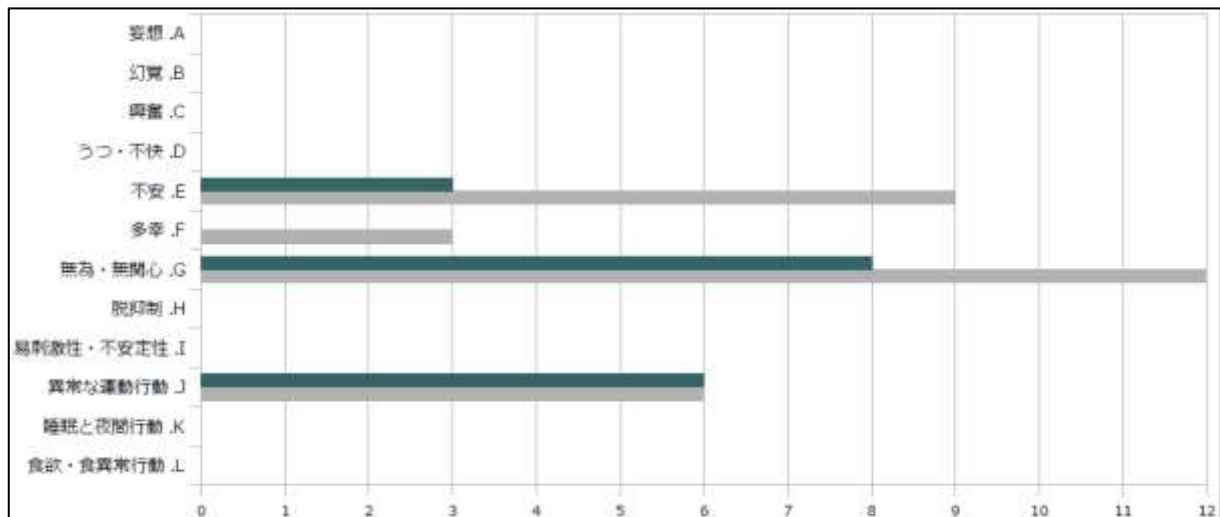
【2回目】

行動心理症状の評価の結果、NPI 得点は 17 点に減少した（図 5）。

話し合いの中で、「無為・無関心」への対応を考えることになり、本人の興味・関心をひき意欲を高められそうなことを 1 つ試してみることにした。

ケア計画は、前回の①②に加えて、③「訪問時に音楽を 5 分間流す」を新たにたてた。

図5 初回のNPI得点（緑）と初回（グレー）からの変化



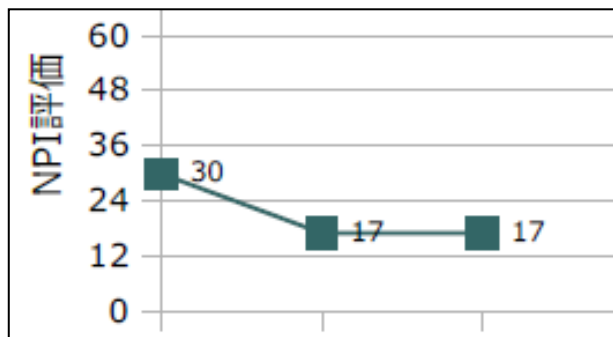
【3回目】

NPI得点は17点で変化はなかった（図6）。

話し合いの中で、音楽を流してもご本人があまり反応を示さなかったとの報告があった。そこで、よりご本人の動きを引き出せそうなことを試してみることにした。

ケア計画は前回の③を変更して、③「訪問時にじゃんけんをする」とした。

図6 NPI得点の推移



3 居宅介護支援（ケアマネジメント）

居宅介護支援事業所の居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）が認知症ケアプログラムを開始した。対象は居宅介護サービスで訪問介護と訪問看護を利用している、80歳代後半の女性であった。話し合いには訪問介護、訪問看護の職員が1人ずつ参加した。

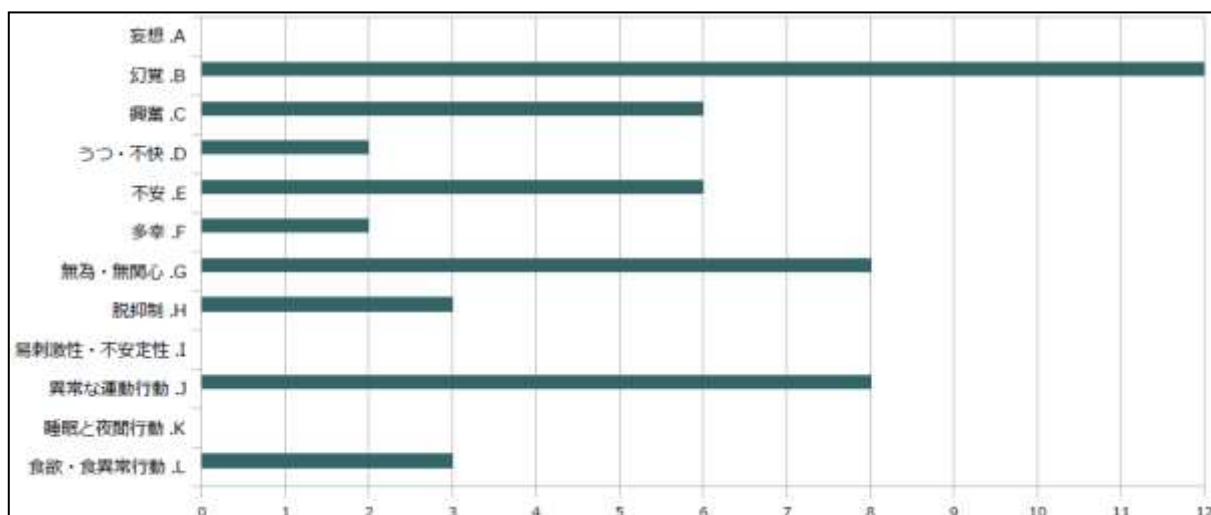
【初回】

行動心理症状の評価を行ったところ、NPI 得点は 50 点で「幻覚」、「無為・無関心」、「異常な運動行動」の得点が高かった（図7）。

背景要因の分析では「眠気や疲労」、「視覚の問題」が該当するニーズとしてあがった。

ケア計画は①「利用者が対象を別の物と思い込んでいても否定せずに対応する」、②「何か介護をするときに本人とケアスタッフが一緒に歌いながら行う」、③「本人の記憶に残っている話題をもち出し興味を引き出す」、とした。

図7 初回の NPI 得点



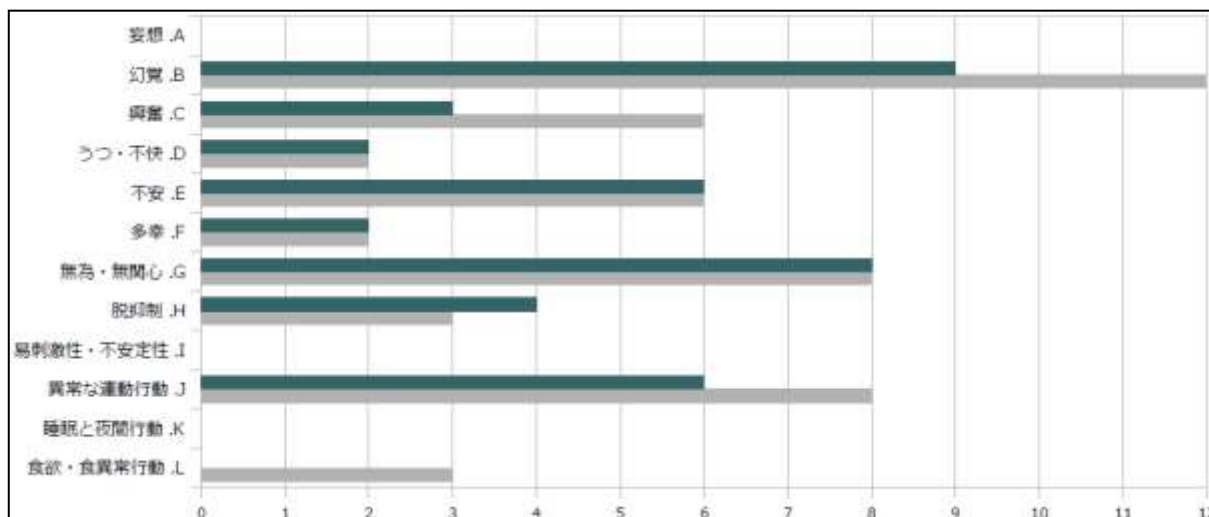
【2回目】

行動心理症状の評価の結果、NPI 得点は 40 点に減少した（図8）。

話し合いの中で、ご本人が以前働いていたときの職業から、他者の世話をすることが好きなのではないか、という仮説があがった。

ケア計画は前回の③を変更して、③「本人にケアスタッフの方から相談するように接する」とした。

図8 2回目のNPI得点（緑）と初回（グレー）からの変化



【3回目】

NPI得点は33点に減少した（図9）。

話し合いでは、NPI得点の減少が継続していることから、ケア計画を変更しないで今の方針で続行することとした。

図9 NPI得点の推移

